

大城ひかるのベトナム

通信

-33-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



ダナンの中心部を流れるハン川から右手に旧市街を望む (筆者撮影)

このほど辞令を受け、ホーチミンからダナンに転勤となりました。ダナンについては何度かご紹介した通り、中部最大の商業都市で、車でそれぞれ1時間の距離に2つの世界遺産があります。美しい海岸線のビーチリゾートとして人気が高

く、日本のテレビ番組でも取り上げられているようです。先日は日越交流50年記念の訪問先として、秋篠宮ご夫妻がお立ち寄りになりました。そんなダナンでの最初の大仕事はK社長のアテンドでした。採用したエンジニアの家庭訪問のため、日本からホーチミンとダナンを訪れるのです。正直、頼まれたわけではなかったのですが、通訳の教員が1人で心細そうだったこと、訪問するエンジニアが以前教えた学生だったこと、観光も希望していることなどを聞いて、またまた私のしゃしゃり癖が出てしまい、勝手に名乗りを上げたというわけです。朝空港で迎え、翌日夕方の空港チェックインまで丸々2日間お供させてもらったのですが、久しぶりに社外の方とお話

社内に化学変化もたらす外国人

しする機会を得て、たくさん学びがありました。K社はもうすぐ創業百年を迎える歴史ある企業です。ベトナムを中心に技能実習生とエンジニアを採用しているのですが、来日前には必ず社長自ら、全家庭を訪問をするそうです。未知の国に大切な子どもを送る親御さんの心配を少しでも減らしたいというのが理由です。各家庭にお邪魔することで家庭環境も分かり、定着率も高まるそうです。



ダナンのシンボル・ドラゴンブリッジ。週末は口から火を噴くイベントが催される (筆者撮影)

訪問先では会社のこと、住居のこと、近隣のこと、教育制度のことを説明し、職場の人たちの応援メッセージを伝えます。最初は不安そうながら親も最終的には「社長にうちの息子を任せますので、言うことを聞かないときは思いっきり叱ってやってください」と言うてくれるようになるそうです。これを聞き、人と人が直接話すことが分かり合う最短距離なんだと改めて感じました。その後は近所の人たちも参加して「飲めや歌えや」の大宴会です。今回はわが校から3人のエンジニアを採用いただき、私は3人も教えた経験があったので、移動中も彼らの話で盛り上がりました。1人は細かい心配りができる反面、やや線が細く、2人目は豪胆で物おじしない反面、考えずに行動しがち、3人目はのんびり屋——と3人も性格が全く違います。特に3人目は優秀な大学を出ているのですが、反応が少し鈍

く、日本語習得も他の2人に比べると伸びがゆっくりでしたので、合格できて本当に良かったと思っていました。

しかし、K社長はそれをすべて理解したうえで、むしろ「毛色の違う3人がどんな化学変化を社内起こしてくれるのか楽しみ」とおっしゃるのです。懸念の3人目についても、面接のときから気づいていたように、**「彼の鈍感力を生かせる職場づくりを考えろ」と職長に伝えてある**とのことでした。外国人採用をポジティブにとらえ、社内改革に生かす姿勢に百年企業の厚みを感じずにはいられませんでした。